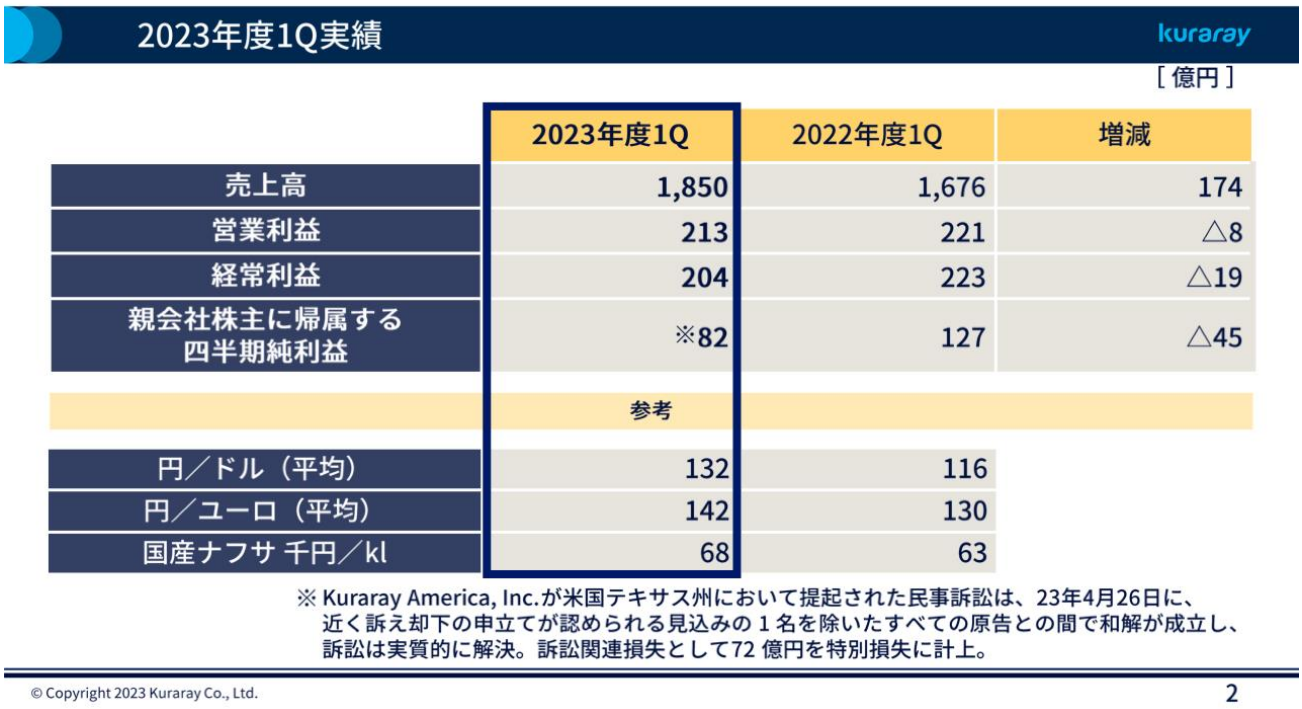
株式会社クラレ

2023 年度第 1 四半期決算説明会

説明者

取締役・常務執行役員 経営企画室担当　　多賀　敬治

2023 年 5 月 12 日



2023年度1Q実績

kuraray

［億円］

	2023年度1Q	2022年度1Q	増減
売上高	1,850	1,676	174
営業利益	213	221	△8
経常利益	204	223	△19
親会社株主に帰属する四半期純利益	※82	127	△45
	参考		
円／ドル（平均）	132	116	
円／ユーロ（平均）	142	130	
国産ナフサ 千円／kl	68	63	

※ Kuraray America, Inc.が米国テキサス州において提起された民事訴訟は、23年4月26日に、近く訴え却下の申立てが認められる見込みの１名を除いたすべての原告との間で和解が成立し、訴訟は実質的に解決。訴訟関連損失として72 億円を特別損失に計上。

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

2

皆さん、こんにちは。多賀でございます。本日はお忙しいところ、当社のカンファレンスコールにご参加いただきまして、ありがとうございます。

それでは、2023 年度第 1 四半期の決算説明をはじめさせていただきます。

スライドの 2 ページ目をご覧ください。

2023 年度の第 1 四半期は、中国がゼロコロナ政策の転換により、経済の正常化を進めるなど、一部では改善の動きもみられたものの、インフレ抑制のための各国の金融引き締めの継続、ロシア・ウクライナ情勢の影響などにより、景気の減速感が強まり、先行き不透明な状況が続きました。

その結果、スライドでお示ししてありますように、売上高は前年同期比 174 億円増の 1,850 億円、営業利益は 8 億円減の 213 億円、当期純利益は 45 億円減の 82 億円となりました。

なお、4 月 26 日に開示しましたとおり、子会社のクラレアメリカが、米国テキサス州において提起されていた民事訴訟は、近く訴え却下の申立てが認められる見込みの 1 名を除いた全ての原告との間で和解が成立し、訴訟は実質的に解決しました。それに伴い、訴訟関連損失として 72 億円を特別損失に計上しています。

為替、および原燃料の実績は、資料にお示ししてあるとおりです。

セグメント別 売上高・営業利益

kuraray

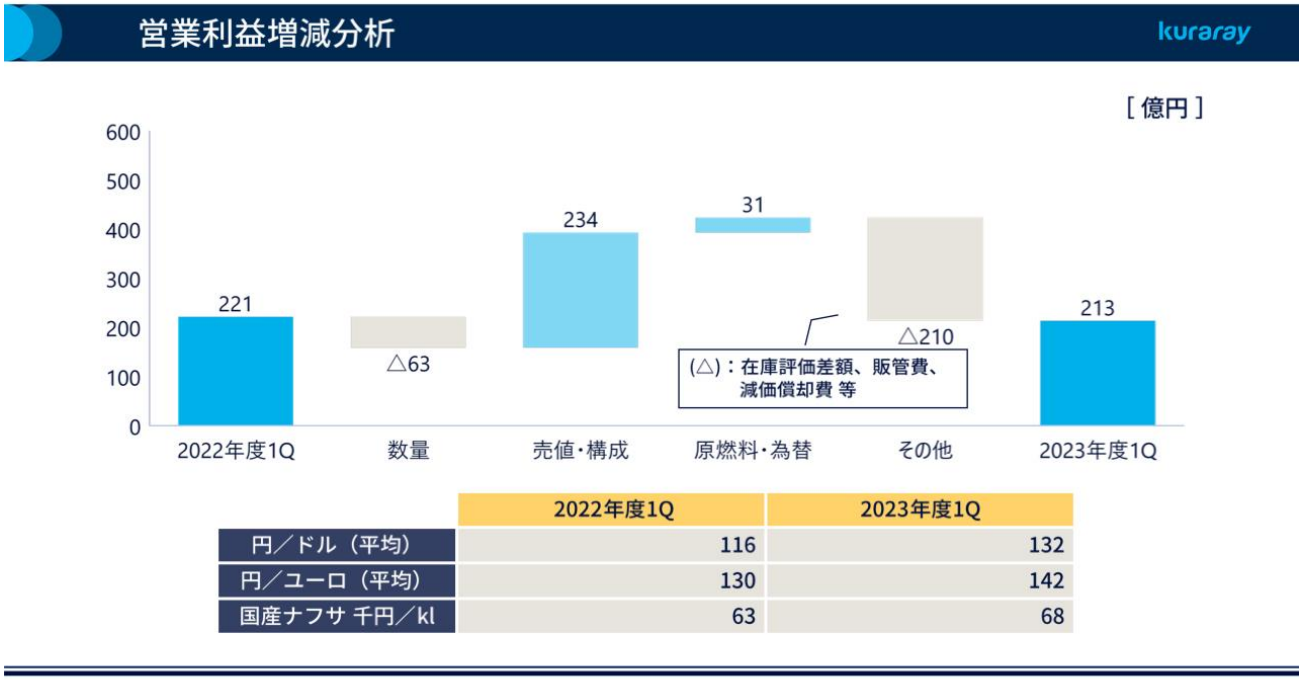
［億円］

	2023年度1Q		2022年度1Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ﾋﾞﾆﾙｱｾﾃｰﾄ	978	178	862	172	117	6
ｲｿﾌﾟﾚﾝ	158	2	154	27	4	△25
機能材料	454	35	380	22	74	13
繊維	135	2	144	16	△9	△14
ﾄﾚｰﾃﾞｨﾝｸﾞ	138	11	140	13	△1	△2
その他	113	1	107	4	7	△3
調整額	△127	△16	△110	△33	△17	17
合計	1,850	213	1,676	221	174	△8

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

次に、3 ページ目をご覧ください。このスライドは、各セグメントの売上高および営業利益の実績を前年同期との比較で示しています。

ビニルアセテートと機能材料は増収増益となりましたが、それ以外のセグメントは減益となりました。



	2022年度1Q	2023年度1Q
円／ドル（平均）	116	132
円／ユーロ（平均）	130	142
国産ナフサ 千円／kl	63	68

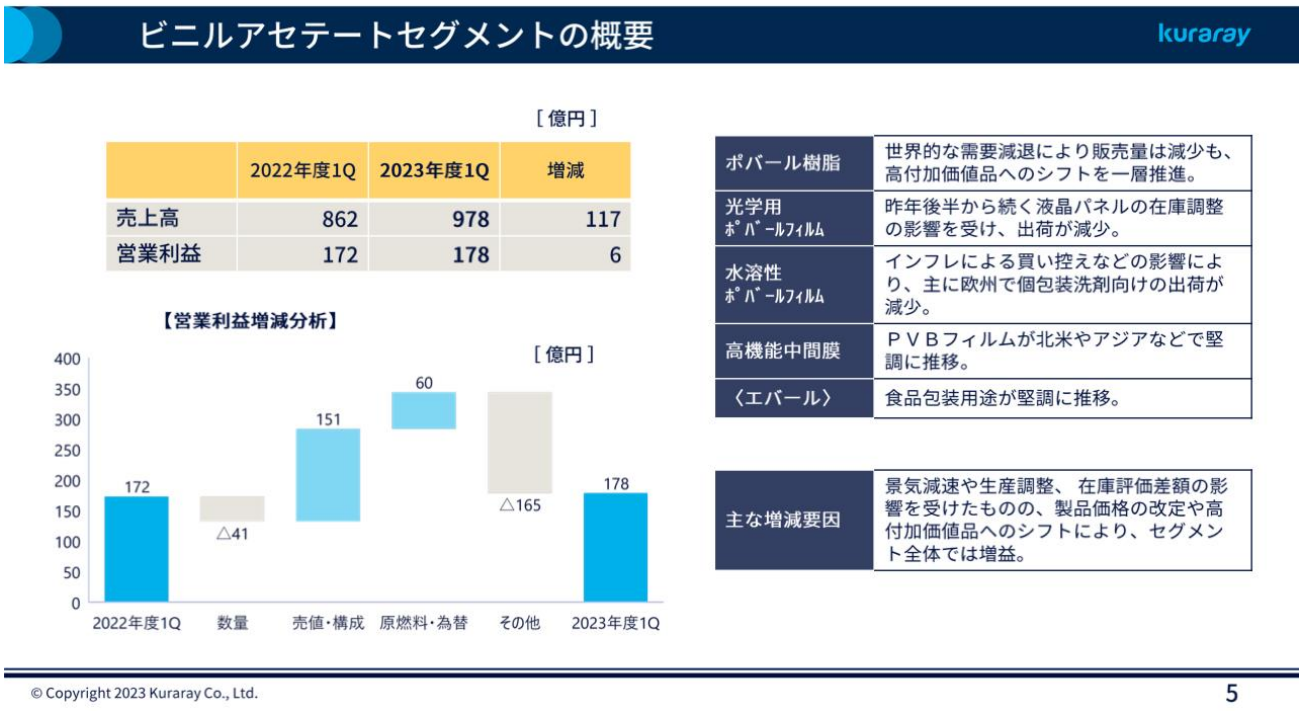
© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

4 ページ目をご覧ください。このスライドでは、営業利益の増減要因の全社まとめを示しております。

その他が原燃料価格の変動による在庫評価差額や、減価償却費を含む経費の増加により、210 億円の減益要因となりました。

一方で、販売価格の改定、および高付加価値品へのシフトにより、売値・構成は 234 億円の増益要因となりました。

数量は景気減速による販売数量の減少や生産調整により、63 億円の減益要因となっています。



次に 5 ページ目をご覧ください。ここからは、セグメント別に事業の状況を説明いたします。

最初は、ビニルアセテートセグメントです。

当セグメントは前年対比で増収増益となりました。各事業の販売の状況は、右上に記載のコメントをご覧ください。

営業利益は、前年同期比で 6 億円増加いたしました。景気減速や生産調整の影響により、数量は 41 億円の減益要因となりました。

また、在庫評価差額などの影響を受け、その他は 165 億円の減益要因となりました。一方で、製品価格の改定や高付加価値品へのシフトにより、売値・構成は 151 億円の増益要因となりました。

光学用ポバールフィルムの需要は本格的に回復しておらず、各事業で在庫評価差額の負担もありましたが、エバール、ポバール樹脂、PVB フィルムなどが貢献し、セグメント全体では増益を確保しました。

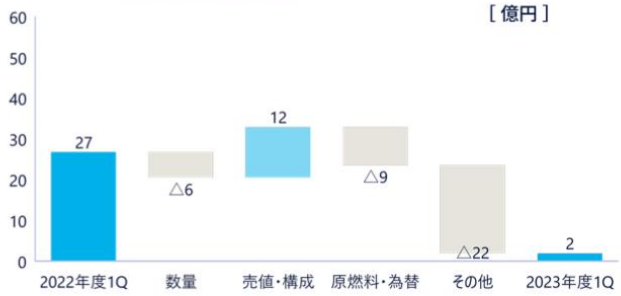
イソプレンセグメントの概要

［億円］

	2022年度1Q	2023年度1Q	増減
売上高	154	158	4
営業利益	27	2	△25

ｲｿﾌﾟﾚﾝｹﾐｶﾙ、エラストマー	昨年後半から続く需要減の影響により、販売量が減少。
〈ジェネスタ〉	自動車向けは回復の兆しが見られたものの、電気・電子デバイスの在庫調整の影響を受け販売量が減少。

【営業利益増減分析】



主な増減要因	価格改定を推進した一方で、稼働を開始したタイ拠点の減価償却費や経費が増加。国内生産事業所では原動費単価が上昇。景気減速や在庫調整の影響により販売量は減少。

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

6

6 ページ目をご覧ください。次にイソプレンセグメントです。

当セグメントは、前年対比で増収減益となりました。各事業の販売の状況は、記載のコメントをご覧ください。

価格改定の推進により、売値・構成の合計は 12 億円の増益要因となりました。一方で、タイ拠点の減価償却費や経費が増加したことなどにより、その他は 22 億円の減益要因となりました。

また、国内工場で原動費単価が上昇したことなどにより、原燃料・為替が 9 億円の減益要因になったことに加え、景気減速や生産調整の影響により、数量は 6 億円の減益要因となりました。

3 事業いずれも減益となり、セグメント全体では 25 億円の減益となりました。

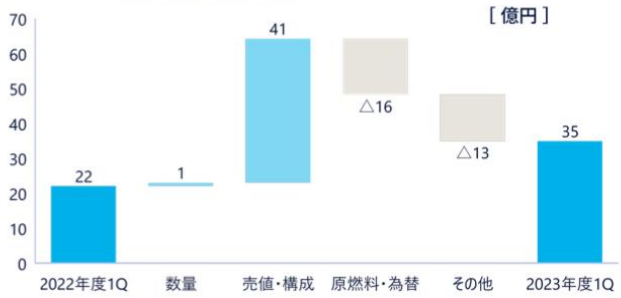
機能材料セグメントの概要

kuraray

［億円］

	2022年度1Q	2023年度1Q	増減
売上高	380	454	74
営業利益	22	35	13

【営業利益増減分析】



メタアクリル	電気・電子デバイスの在庫調整などの影響を受け販売量が減少。
メディカル	欧州を中心に審美治療用歯科材料の販売が順調に推移。
環境ソリューション	飲料水用途の需要が増え、活性炭の販売は堅調に推移。

主な増減要因	原燃料価格上昇や経費の増加、在庫調整差額の影響を、価格改定の進展と販売構成の良化による増益でカバー。

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

7

7 ページ目をご覧ください。機能材料セグメントは、前年同期比で増収増益となりました。

各事業の状況は、右上のコメントのとおりです。

原燃料・為替は、原燃料価格上昇により 16 億円の減益要因、その他は、販管費などの経費の増加や在庫評価差額の影響によって 13 億円の減益要因となりました。

一方で、価格改定の進展と販売構成の良化により、売値・構成は 41 億円の増益要因となった結果、営業利益は 13 億円の増益となりました。

事業別では、メタアクリルは原燃料価格上昇の影響を受けて苦戦しましたが、メディカル、環境ソリューションが好調でした。

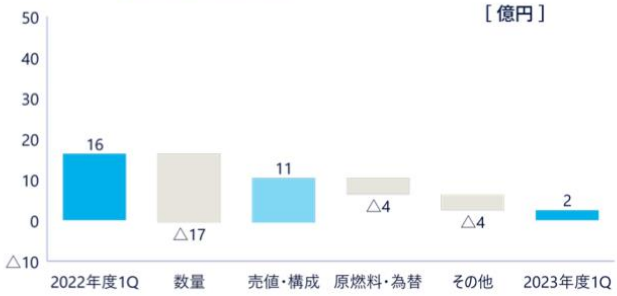
繊維セグメントの概要

kuraray

［億円］

	2022年度1Q	2023年度1Q	増減
売上高	144	135	△9
営業利益	16	2	△14

【営業利益増減分析】



〈クラリーノ〉	スポーツ用途などで需要減退の影響を受け、出荷が減少。
繊維資材	〈ベクトラン〉が堅調に推移したものの、ビニロンは自動車生産回復の遅れや景気減速の影響を受ける。
生活資材	〈クラフレックス〉で外食産業の需要が低調。

主な増減要因	価格改定を進めたものの、景気減速による需要低迷などの影響を受け出荷が減少。

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

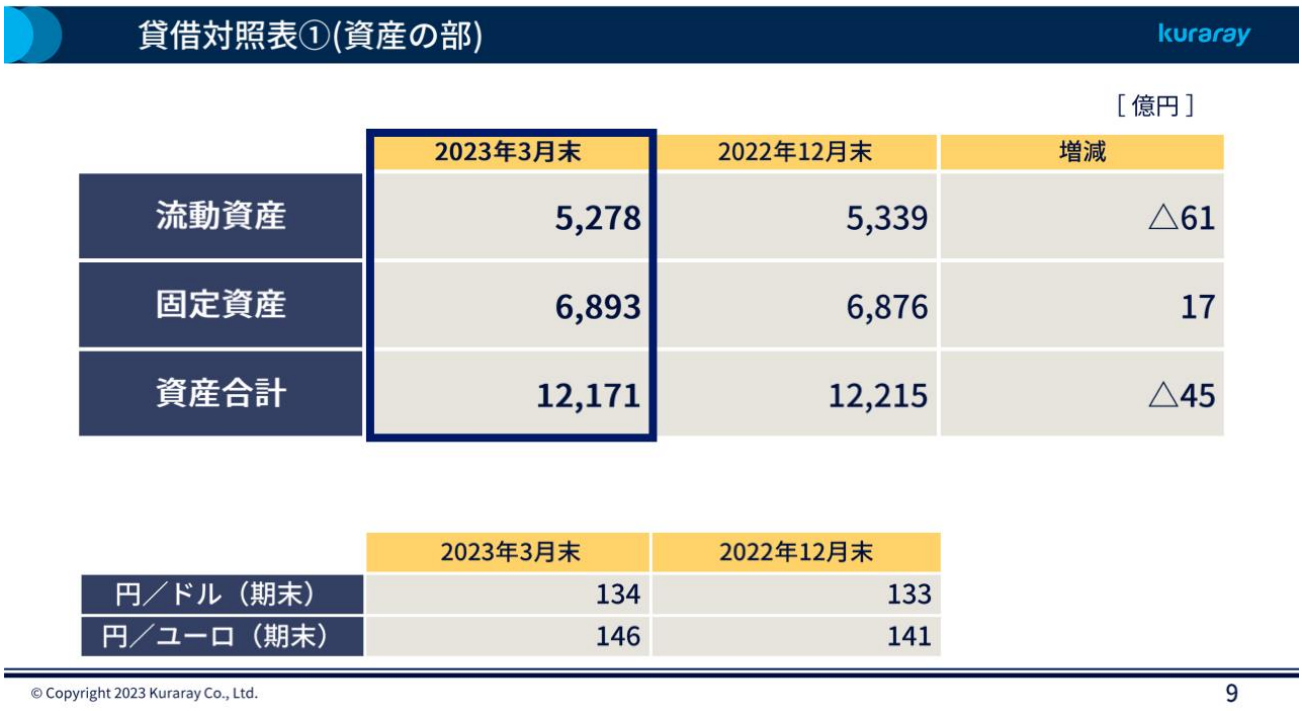
8

次に 8 ページ目をご覧ください。繊維セグメントは、前年同期比で減収減益となりました。

各事業の状況は、コメントのとおりです。

売値・構成は 11 億円の増益要因となったものの、景気減速による需要低迷などの影響を受け、数量は 17 億円の減益要因となりました。

その結果、3 事業いずれも減益となり、セグメント全体の営業利益は 14 億円の減益となりました。



9 ページ目をご覧ください。このスライドでは、貸借対照表の資産の部を昨年末と比較しております。

流動資産は 61 億円の減少となりました。これは棚卸資産が 114 億円増加した一方で、借入金の返済などにより、現預金が 151 億円減少したことによるものです。

貸借対照表②(負債と純資産の部)

kuraray

［億円］

	2023年3月末	2022年12月末	増減
流動負債	2,206	2,213	△7
固定負債	3,200	3,317	△116
負債合計	5,407	5,530	△123
純資産合計	6,764	6,685	79
負債・純資産合計	12,171	12,215	△45
自己資本比率	53.8%	52.9%	0.8%

	2023年3月末	2022年12月末
円／ドル（期末）	134	133
円／ユーロ（期末）	146	141

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

次に 10 ページ目をご覧ください。このスライドでは、貸借対照表の負債、純資産の部をお示ししております。

負債は、長期借入金の返済などにより、123 億円の減少となりました。純資産は、79 億円の増加となりました。その結果、自己資本比率は 53.8%となりました。

2023年度 業績予想（期初予想との比較）

kuraray

［億円］

	2023年度今回修正予想			2023年度期初予想			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,800	4,300	8,100	4,000	4,300	8,300	△200	0	△200
営業利益	360	480	840	360	480	840	0	0	0
経常利益	330	460	790	330	460	790	0	0	0
親会社株主に帰属する当期純利益	170	300	470	210	300	510	△40	0	△40

＜参考＞

円／ドル（平均）	130	130
円／ユーロ（平均）	140	140
国産ナフサ 千円／kl	68	69

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

11

11 ページ目をご覧ください。このスライドでは、今回修正した 2023 年度の業績予想を 2 月に公表した期初予想との対比で示しています。

欧米を中心とした、金融引き締めなどによって景気の減速感が強まり、当社グループの製品も一部でその影響を受けていますが、第 2 四半期においてもビニルアセテートを中心とする高付加価値品の需要が、引き続き堅調に推移するものと想定します。

第 1 四半期に訴訟関連損失を計上したこと、および足元の事業環境を踏まえ、上期、および通期の業績予想を修正いたします。

上期の業績予想は、売上高は期初予想に比べ 200 億円減の 3,800 億円、当期純利益は 40 億円減の 170 億円となります。なお、営業利益、経常利益の予想は変更しておりません。

下期の業績予想につきましては、現時点では期初予想を据え置いており、第 2 四半期の業績確定時に必要に応じて、見直しを行う予定です。

【参考】 2023年度 業績予想（前年実績との比較）

kuraray

［億円］

	2023年度今回修正予想			2022年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,800	4,300	8,100	3,580	3,983	7,564	220	317	536
営業利益	360	480	840	381	490	871	△21	△10	△31
経常利益	330	460	790	379	462	841	△49	△2	△51
親会社株主に帰属する当期純利益	170	300	470	242	301	543	△72	△1	△73

<参考>

円／ドル（平均）	130	123	132
円／ユーロ（平均）	140	134	138
国産ナフサ 千円／kl	68	72	75

© Copyright 2023 Kuraray Co., Ltd.

12

12 ページ目以降は、詳細の計数情報となります。参考までにご覧ください。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。